

修復が進まない巨大遺跡の記録。写真として後世に伝える。

カンボジアのアンコール遺跡。8世紀半ばから15世紀半ばにかけて繁栄したクメール王朝の都である。ここには、500もの仏教寺院やその跡が点在するが、それらを見守るかのように「尊顔」と呼ばれる岩の彫刻が残されている。写真家のBAKU斉藤さんはこれらの尊顔を真正面から撮影して、韓国とカンボジアで写真展を開催した。

ひとつひとつに足場を組み、丁寧に撮影された「尊顔」。

アンコール遺跡の尊顔は組み上げた巨岩を彫って造られ、大きなものは顔の上下が6メートルにも達する。その数は250あまり。クメール文化を象徴する遺跡と呼ばれているが、それが何のために掘られたものかわかっていない。それぞれがアルカイックスマイルと呼ばれる独特の微笑みをたたえているものの、その表情はひとつひとつが異なっている。

1992年にユネスコからもっとも緊急に修復が必要な世界文化遺産に指定された。しかし、長く続いたカンボジアの内戦のため保存・修復作業も進んでいない。

BAKU斉藤さんは20年も前からこの地を訪れていたが、日本政府の修復プロジェクトに参加して尊顔の記録

「世界文化遺産写真展『アンコール遺跡の

尊顔』2008ソウル&プノンペン展」事業



ひとつひとつの尊顔を撮るたびに高い足場を設営していった

を残すという作業を始めたのである。

「不思議なことに地球上のあちこちで自然環境が破壊されていく中、この遺跡は樹木に守られているような気がしました。ただ、修復には相当の年月がかかると思う。今残しておかなければ永遠に失われてしまう。せめて写真だけでも現状を記録して皆さんに知っていただきたい」そんな思いがきっかけだった。

しかし、その撮影は容易ではなかった。それぞれの尊顔を比較できるようにするためには、同じ条件で撮らなくてはならない。BAKU斉藤さんは真正面からの撮影にこだわり、そのために1体の撮影のために専用の足場を組んだ。足場は時には40mもの高さになった。足場を組むにも数日かかる。周囲は観光地として解放されているため、撮影を終える毎に足場を撤去していく。雨期には撮影ができないため、乾期のみ撮影となるが、40度を超



韓国で開催された展示会も大好評だった

す熱帯雨林の中での作業である。撮影中気を失いそうになったことも何度かあったという。条件は厳しく、遺跡群の中心となるバイヨン尊顔の撮影だけでも3年の年月がかかっている。

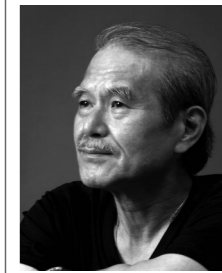
100万人都市のアンコール遺跡はアジアの貴重な財産になる。

こうして撮影された写真は2006年に国連合同写真展・世界文化遺産「アンコール遺跡の尊顔」として、ニューヨークの国連本部を皮切りに、日本でも各地で写真展が開催されたのでご覧になった方もいるだろう。

そして2008年は韓国のソウルと、カンボジアのプノンペンで同様の展示会を行うことになった。ソウル世界遺産写真展「アンコール遺跡の尊顔」は2008年4月10日～24日にポスコ・アート・ミュージアムで開催。続いて5月17日～5月31日にはカンボジアの王立プノンペン大学 カンボジア日本人材開発センター(CJCC)で開催された。

政府の要人や学者をはじめ多くの人が訪れ、どちらも

担当者より



永遠に失われてしまう可能性もある尊顔を記録に残すことができました。

写真家
BAKU 斉藤さん

韓国、カンボジアともに写真展を訪れた皆さんから本当に喜んでいただきました。私自身、当初はアジアの田舎の遺跡という認識だったわけですから、皆さんが驚くのも無理はありません。作品の展示や輸送だけでも大きな費用がかかりましたが、助成をいただいて大成功裡に終えることができ深く感謝しております。

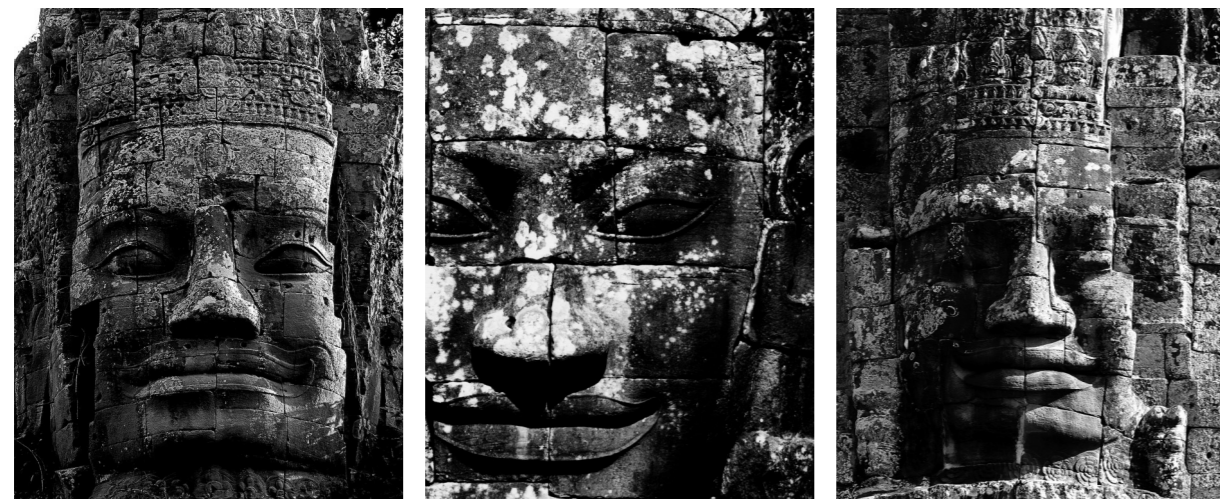
大盛況だった。左下のような迫力のある尊顔の写真が並んだのだから、その衝撃は大きかった。地元の人でさえ、真正面から尊顔を見たのは初めてのことだ。誰もがアジアにこれだけ大規模な都市と文明が存在したことを知り、国を超えて文化遺産を共有することの重要性を再認識したのである。

「アンコール遺跡はインドシナ全域に亘る巨大な都市です。それが15世紀にアユタヤ朝に滅ぼされるまで、700年という長さで繁栄し続けた。当時は100万人都市だったので、世界で見比べても最大級の規模なのです。」(BAKU斉藤さん)

当時のクメール王朝と日本との交易の記録もあり、日本人村さえあったというが、いつのまにか歴史の中に埋もれてしまった。しかし、アジアの貴重な財産として後世に残さなくてはならない。その意味で今回の展示会が掘り起こしのよいきっかけになったといえるだろう。

展示会終了後、写真作品はカンボジア国政府に寄贈され、日本とカンボジア友好にもひと役かった。

また修復作業は進んではいないものの、当時の素材、基礎、工法、などを研究して、同じ方法で行わなければ組むことができず、少なくとも100年はかかりそうだという。それだけにこの事業が果たした役割と意義は大きい。



同じ顔がひとつとしてない尊顔の表情